

日本
サガツマン氏の
ほん
くわん

日本の國際上に於ける位置は戰前の獨逸に酷似してゐる。英國は同盟を以て、獨逸に反對する列國を以て、英國を聯ね鐵の鎖を以て獨逸を取囲んで居るが、米國が斯かる外交政策を弄してゐることは思はないが、日本は反對する列國を以て、日本を中心として鐵の鎖を以て日本を取囲まんとするのは事実である、日本は非常な注意を拂はねばならぬ、私は米國を經て日本に來たが、非日本の感情を表白する支那通信が月刊にも週刊にも日刊にも満載といふ有様であつた。問 日本はミリタリズムの國として知られてゐるやうだ、果して然るや否や。答 事實は何うあらうとも日本が第二の獨逸として廣く世界に謠はれることとは貴説の通りである。日本は如何な手段を用ひても之を拂はねば何うとも思はぬが、私はどうも無理であるかも知れないが、私は日本人の友として極めてフランクに露骨に申上げるのだ。獨逸は御承知の如く極めて苦い経験を嘗めた、日本は獨逸の經驗を以て自己の経験させねばならぬ、獨逸如何に強しとするも世界を相手にして勝てるものではない、社會の同情なくしては同盟罷工に勝てないが如何に強しとするも立たなくて決して戦争に勝てるものではない。問 日英同盟に對する觀察如何。答 米國も英國も其極東に要するものは支那の市場である、米國が戦争をいふは洞唱に過ぎない（然れども米國は歐洲戰争に加はりたるにあらずや）其求むる所は支那の商業である、英國も亦同じことであるが英國は印度を有つてゐる、ボルシエヴィズムが波斯、アフガンを通して印度に侵入しつゝある、印度なくして大英帝國なし、英國は斯かる意味で日英同盟をば思ひ切つて打切る譯には行くまいと思ふ。

來出本製
講
世界に聲がリープ
消し、獨逸は日本を爲すが、生活の潤滑油は日本の製造業である。蒙古の國は、大國民で、勞働者たる我々は、獨逸の國に對する見られることは、勿論である。

（アーヴィング著）
「支那の經濟」

時も産者か處百處分間に處されたラの也被極も

讀者記者

海興の十萬圓提供

少きため「ラルガルタ」の發生少く、隨つて干濕共に強く除草にも害蟲驅除にも一倍半の仕事をなす。

時報記者足下

前々號の貴紙難報欄を見ると、海外興業會社は伯國聖州

珈琲耕地行き移民二千名に對し、一

名宛五十圓計金十萬圓を渡航補助と

して提供するさうである、實際是れ

では移民取扱業を爲すために、海興

は大なる損失を招く譯になる様であ

るが、事實何う云ふものであるか、

他人の病氣を頭痛に病むは餘計な事

の様ではあるが、折角思ひ切つた事

を行ひ始めても續かねば結局効果渺

茫であるから、一つ眞實な處を聞

いて貰ひたい(心配生)

君も仲々疑ひ深いですね、移民取

扱業と云ふても今日の海外興業會

社の移民取扱は昔の泡金を儲けた時代の移民取扱は全然其性質を異にし、謂はゞ政府の行ひるべき處分の一方法として伯國行き移

民獎勵の爲め、之が宣傳費たらし

むべく海外興業に下附したもの

仕事を便宜、上海外興業に行らせ

る云ふに過ぎないから、今度の内務省が過剰人

口處分の一方法として伯國行き移

民を異にし、謂はゞ政府の行ひるべき處分の一方法として伯國行き移

民獎勵の爲め、之が宣傳費たらし

むべく海外興業に下附したもの

仕事を便宜、上海外興業に行らせ

る云ふに過ぎないから、今度の内務省が過剰人

口處分の一方法として伯國行き移

民獎勵の爲め、之が宣傳費たらし

むべく海外興業に下附したもの

